

# 読解の科学

## —第二言語読解の基礎的理解と教育への応用をめざして—

第二言語の読解は、第一言語読解と共通の部分もあれば、異なる部分もたくさんあり、研究によってそのメカニズムが明らかになってきています。しかし、教育現場でその科学的な知見が十分に共有され、実践と関連付けられているとは言えない状況にあります。本研修では、第二言語読解全般について、これまでにわかっていることをまとめたうえで、語彙と読解の関係や、多読の効果や方法に関する最新の科学的知見を紹介いたします。そして、議論を通して、実践への応用、現場の改善、疑問の解決を目指します。

\*\*\*\*\*

**日時:** 2016年11月12日(土) 10時~17時

**会場:** 政策研究大学院大学 5階講義室 M

(東京都港区六本木7丁目 22-1) [地図・アクセス](#)

**講師:** 山下淳子氏(名古屋大学)

**コーディネーター:** 松下達彦, 石澤徹, 岩田夏穂(教師研修委員)

**対象:** 第二言語による読解に関心のある方

**定員:** 60名(先着順)

**受講料:** 一般 5,000円 日本語教育学会会員 4,000円 大学院生 3,000円

**内容:** 各講義は質疑応答/グループワーク/発表を入れて進めていきます  
(内容は、変更することがあります)。

10月31日  
締切

10:00-12:00	<b>講義1「読解とは」</b> 読解の捉え方は、指導・評価の観点や方法に影響を与えます。まず、読解の全体像について考え、第一言語と第二言語での読解の類似点・相違点も含め、読解を支える知識や技能についての理解を深めます。
13:00-14:30	<b>講義2「語彙と読解」</b> 語彙と読解には相補的な関係があり、豊富で質の高い語彙力が読解を促進すると同時に、読解を通じて語彙力を伸ばすという側面もあります。この両方向の関係から語彙と読解の関係についての理解を深めます。
14:45-16:30	<b>講義3「多読と言語教育への示唆」</b> まず読解力を高める指導法の1つとしての多読について話します。続いて、読解指導での留意点、有効とされる指導法など、読解研究から第二言語読解の教育現場への応用について検討します。
16:30-17:00	全体のまとめと質疑応答

### ◆申込方法◆

参加申込書は次ページにあります。メール添付またはFAXでお送りください。記入用にワードファイルが必要な方は下記までお問合せください。メール応募の場合、題名は「11月12日読解の科学申込」としてください。申込書が到着次第、折り返しメールで受講料の振込先等をご連絡します。

締切は、10月31日(月)、定員になり次第、締切前でも募集を終了します。

### ◆注意事項◆

申込書を送っても学会からの返信メールが到着しない場合は書類未着の可能性がございますので、必ずご自身の責任においてご確認ください。事務局対応は平日の9時~18時です。週末や夜間の対応は翌日以降となります。なお、本募集に関して集めた個人情報には本研修の実施以外の目的には使用いたしません。

応募書類は返却しません。

### ◆申込および問合せ先◆

公益社団法人 日本語教育学会  
教師研修委員会事務局

E-mail: kyoshikenshu@nkg.or.jp

TEL: 03-3262-4291

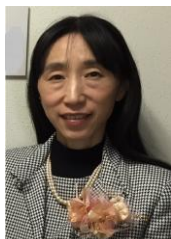
FAX: 03-5216-7552

〒101-0065 東京都千代田区

西神田 2-4-1 東方学会新館 2F

### ~講師からのメッセージ~ 山下 淳子 氏

読解は現代社会の日常生活、教育、仕事のあらゆる側面にとけこんでおり、私たちはまるで空気の存在のように意識せず行っています。しかし読解はとても複雑な技能で、かつ言語や知識を獲得する有効な学習手段にもなります。第二言語での読解について理解を深め、皆さんと一緒に日本語教育に応用する方法を議論できたらと思います。



<講師プロフィール> 第二言語読解とその構成要素を中心に、第二言語理解の分野で研究活動を継続中。国内、海外の研究者と共同研究多数。長年にわたり日本の大学で英語教育と、第二言語習得分野の大学院教育に従事している。英国ランカスター大学 PhD, 名古屋大学教授。

<所属機関 HP>

[http://www2.gsid.nagoya-u.ac.jp/blog/dicom/?faculty=yamashita\\_junko](http://www2.gsid.nagoya-u.ac.jp/blog/dicom/?faculty=yamashita_junko)

【日本語教育学会教師研修委員会宛】メール kyoshikenshu@nkg.or.jp FAX 03-5216-7552

**「読解の科学—第二言語読解の基礎的理解と教育への応用をめざして—」(2016年11月12日)**
**参加申込書**

氏名	(漢字) (ローマ字)
所属・職名	所属: 職名(大学院生は学年):
種別	<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 日本語教育学会会員 [No. ] <input type="checkbox"/> 大学院生
住所	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場
電話	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 携帯
FAX	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> なし
E-mail 携帯アドレス不可	※連絡の基本はEメールとなりますので、間違いがないかご確認ください。
日本語教育または 言語教育活動経験	( )年 主な機関 ( ) 主な対象 ( )
文字数等は問いませんが応募用紙全体がA4で1枚に収まるようお願いいたします。 1. 受講動機を簡単にお書きください。 2. どのような読解指導をしていますか。その中で困難や疑問に感じている点があれば具体的にお書きください。	
3. 次のうち、知っている語に○、よくは知らないが聞いたことがある語に△をつけてください。 ( )トップダウン処理 ( )ボトムアップ処理 ( )高次レベル処理 ( )低次レベル処理 ( )多読 ( )付随的学習 ( )複単語表現(multi-word expression) ( )自動化	
4. この研修コースを何で知りましたか。該当するものに☑をつけてください。 <input type="checkbox"/> (1)学会からのメール <input type="checkbox"/> (2)その他からのメール( ) <input type="checkbox"/> (3)学会ホームページ <input type="checkbox"/> (4)学会からのチラシ <input type="checkbox"/> (5)学会誌『日本語教育』 <input type="checkbox"/> (6)友人・知人 <input type="checkbox"/> (7)大学・日本語学校等機関( ) <input type="checkbox"/> (8)その他( )	
5. 当日研修の様子を記録・広報等の使用目的で写真撮影をいたします。該当するものに☑をつけてください。 →記録・広報用の写真に写ることを <input type="checkbox"/> 承諾する <input type="checkbox"/> 承諾しない	

以上